

# よっ葉だより

2011 年  
秋号

編集・発行

特定非営利活動法人  
中越防災フロンティア

〒940-0861  
長岡市川崎町 2249 番地 1  
TEL 0258-31-8110 FAX 0258-94-9830  
info@c-bosai-frontier.jp/  
http://c-bosai-frontier.jp/

## メモリアル

中越大震災から 7 年が経ちます。私たちは災害からの苦難を乗り越え、復興を成し遂げ、そして多くを学びました。その地震の体験を将来に語り継ぐため、(社)中越防災安全推進機構が中心となって、中越大震災メモリアル拠点整備が進められています。独自のテーマを持つ 4 つの拠点と 3 つの公園。各施設を「中越メモリアル回廊」というネットワークで結び、各地を巡ることで「新潟県中越大震災」の多くを知ることが出来ます。ぜひお出かけ下さい。



地震発生時刻を刻んだままの時計

## クローバーバス運営移行準備検討委員会を開催

H23 年度は 8 月 12 日(金)に第一回、10 月 7 日(金)に第二回会議を、山古志支所会議室にて開催しました。

主に復興基金終了後の将来のバス運行の財源と、今後のバス運営組織等について議論しました。この委員会では話し合われたことや、地域説明会



などを通して皆様から頂く意見をもとに、復興基金終了後もバスの運営・運行がスムーズに移行できるように、検討していきます。

## これまでの議事要旨

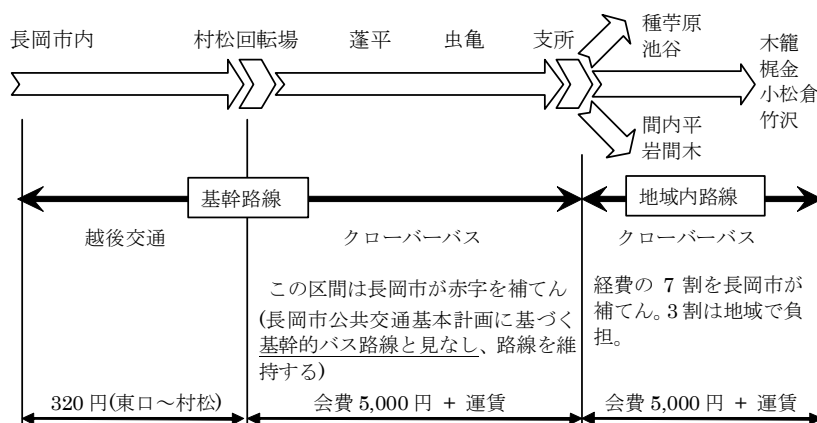
### ○地域内生活交通の効率化

教育委員会が運行する通学タクシーとクローバーバスを、将来統合して一本化することによって、効率的な運行と経費の削減を図る。ただし市の規程で通学距離の基準があり、すべての生徒が乗れるわけではない。規程距離以内の近距離の生徒もクローバーバスに乗ることはできるが、冬期を除いてあくまでも徒歩が基本である。

### ○機能別路線に対する

基金終了後の長岡市の財政支援長岡駅～村松線と村松～蓬平～山古志支所線を、市の「基幹的バス路線」と見なし、路線を維持する。

また、山古志地域内を運行するクローバーバスについては、「地域内路線」として、長岡市が運行経費の 7 割を補てんする。



7 割という数字は、全国的な平均であり、今後コミュニティバス運行を始めていく他の地域との整合を取るための数値であり、会員数や利用人数の増減によって、変化していく可能性もある。しかし、同じ長岡市内によって負担金の

格差や住民が受けるサービスに不公平感が生まれにくいよう、地域で負担できる範囲を考えながら、サービスレベルを検討していく。

○会費収入だけに頼らない

仕組み(有償化)

年会費は継続しつつ、受益者負担の原則に基づき利用者全員から運賃(乗るたびに課金)を徴収する。また、イベント開催時の送迎や、特産物・農産物の搬送にバス車両を活用し事業収入を得る。

○総合特区について

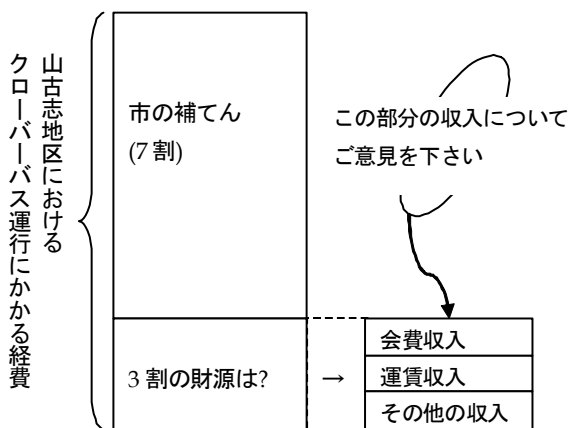
新しく施行された総合特別区域法により、長岡市の中山間地域の自立促進を図ることを目的に、関係する団体によって、「中山間地域自立促進協議会」が設立され、これまで三回にわたって会議が開催された。具体的には、生活交通事業(クローバーバス等)において①過疎地有償運送の旅客範囲の緩和②自家用マイクロスバスの貸し渡しの許可基準の緩和を申請したが、今後とも継続して協議会で審議し、追加で申請手続きを行っていく。認可後は、平成24年に手続きができる形にして、平成25年度には一部有償運送化に取り組み予定である

委員会の内容  
もっと簡潔に!

委員会では、結局何を相談して何が決まったの? 簡単に言う、と、まず、基金終了後もクローバーバスはな

くなりません! 主に長岡市の補てんで運行していきます。

山古志地域内の運行経費の7割を長岡市から補助してもらえ、残りの3割は①会費②運賃③その他の収入でまかないましょう! そので、その他の収入について地域の皆さんのご意見も拝借したいのです。



フロンティアは  
どうなる?

委員会では、バスを運営していく組織についても検討を始めました。フロンティアは「社会実験」としてバ

ス運行の担い手を引き受けましたが、いずれは地元の人たちが主体の運営母体に移行していきたいと思えます。自分たちのバスを自分たちの力で動かす、そんな素晴らしい組織が立ち上がることを期待しています。

子供たちの  
通学時の安全  
のために

積雪期には、山古志小中学校の児童・生徒通学時の安全を守るために、クローバーバスの特別便を運行しています。

学校側と教育委員会等の協議の結果、今年も2学期が始まった10月11日より、夕方便の運行を開始しました。これは日没が早いから特別便を運行したのではなく、通学路に民家も街灯もない区間が相当あるという事情を考慮したものです。近隣の児童・生

徒は、本来は徒歩が基本だと思えますし、登下校も教育の一環だという考え方もあります。天気がいい明るい時間帯には、秋風を感じながら歩いて帰るのもいいと思えます。

編集後記

今年の夏はどこへ行っても節電でしたね。おかげで扇風機がよく売れて、電器店の店頭には展示品すら置いていませんでした。また、ウチワや扇子、風鈴などもよく売れたみたいです。

考えてみたら、私が幼かった頃は、家にエアコン(当時は「クーラー」と言った)もなかったけど、夏の暑さには耐えていたっけ……。というか、現代ほど暑くなかったのかもしれない。いやあ、あの頃は単に体が暑さに慣れていただけなのかなあ。

ところで今年の冬は、反射式のストーブが売れそうですね。

